



地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念

135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針



患者中心医療

患者の人権と
意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・
予防医療を中心に
医療機能の
充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関
との連携を行い
安心できる医療の
展開を行います

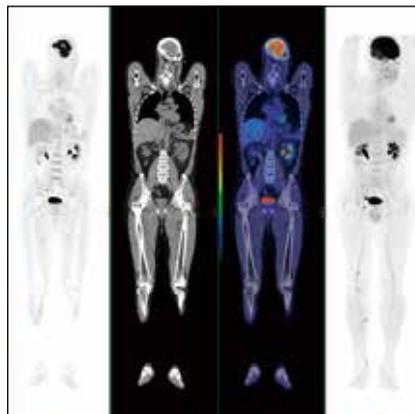
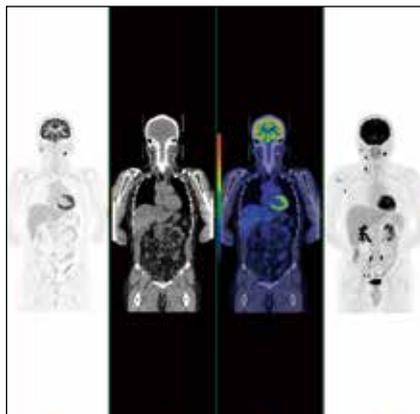
社会貢献

災害医療派遣・
医療情報公開・
医療ボランティアの
活動を行います

医療人育成

医療に携わる
喜びが持てる
医療人の育成を
行います

PET-CT装置導入



この度、当院は、PET-CT装置を導入いたしました。PETとは、「陽電子放射断層撮影」という意味で、ポジトロン・エミッション・トモグラフィ（Positron Emission Tomography）の略です。

通常、がんは、がん細胞の成長がある程度進んでからでないと発見しにくい病気です。しかし、PET検査では、検査薬を人体に投与し、がん細胞にはっきりとした目印をつけることができるため、小さながんの発見が期待でき、かつ全身の検査が可能になります。

当院に導入された装置はCT装置を備えており、高精度な位置合わせが可能になるため、さらに鮮明な画像で、腫瘍の位置や大きさを撮影することができます。また、予想外のがんの発見に威力を発揮することから、がんの可能性が疑われながらも病巣が発見できない“原発不明癌”の診断や、がんの転

移・再発を調べる検査として重要とされています。近年では、この特性を利用して、全身のがんのスクリーニング（ふるい分け）を目的とした“PET検診”が注目され、当院でも実施する予定です。

このように最新の装置を導入したことにより、これまで熊本市内の4施設に限られていた検査が、この人吉の地で可能になり、より高精度の画像診断からは、地域の皆様におけるがんの早期発見・早期治療に繋がっていくことに期待できると考えています。

なお、検査についてのお問い合わせは、画像診断センターまでお願いいたします。

<お問い合わせ先>

健康保険人吉総合病院 画像診断センター

診療放射線技師 恒松 明彦

0966-22-2191 (内線 668)

第6回病院フェスティバル開催

12月8日(日)災害実動訓練・避難誘導訓練の後に行われた病院フェスティバルは、病院建替え後最初の、また「健康保険人吉総合病院」として最後の病院まつりでした。

今回は恒例の内容に加え、地域やホームページより募ったぬり絵と書道作品の展示やステージ発表、あの有名な!!亀田兄弟参加の餅つき大会と、内容盛り沢山で開催しました。

ステージ発表では人吉幼稚園の合唱と人吉第一中学校ブラスバンド部の演奏で華を添えて頂きました。当院緩和医療センター長 西村 卓祐医師と緩和病棟看護師の緩和劇団による市民公開講座も多くの方にご覧いただき、「在宅医療や緩和病棟のことが分かり、安心しました」「寸劇がとてもすばらしかった」などご感想も多数頂きました。緊急ゲストの亀田兄弟のお二人には、表彰式に餅つきと入場から退場まで大変な人に囲まれての出演となりました。

新棟では、各部署のブース発表やバザー等、それぞれの特徴を生かした催しが展開され、ご来場の皆様には楽しみながら当院のことを知って頂けるよい機会に



なったのではないかと思います。

駐車場では、各方面の方々に出張販売をしていただき、過去最大の出店規模となりました。来場者の方々にも好評で、完売するお店も多くみられました。

また、スタンプラリーでは、全てのスタンプを集めた方は、170名にも上り、景品の綿菓子ブースは大盛況となりました。山江村建設業安全協議会の皆さんありがとうございました。

師走の寒い中でしたが約500名の来場者があり、盛会のうちに終えることができました。今回ご協力頂きましたボランティアの皆様、その他多くの地域の皆様に心より感謝申し上げます。今回のフェスティバルを通して病院全体が一致団結し、地域の皆様に安心していただける医療が提供できるよう努めて参ります。

6階病棟 看護師 中田 真紀

合同災害訓練

12月8日(日)人吉総合病院・球磨病院・上球磨消防署が参加して合同の災害訓練が行われました。訓練について球磨病院様より感想を頂きましたので、掲載させていただきます。

今回、初めての試みとして合同災害訓練に参加させて頂きました。「南海トラフ地震マグニチュード8の地震により、人吉球磨地域においても震度5弱の揺れを感じ、家屋の倒壊などにより多数の傷病者が発生した」との想定で訓練が行われました。

当院においては初めて多数傷病者を受け入れ、トリアージを行う訓練とあって一月以上前から各エリアの役割分担、物品の準備、勉強会を行うなどの準備を行ってまいりました。

当日は、事前にシナリオがあったにも関わらず想定外の出来事も多く、あたふたしながらも一人ひとりがそれぞれの部門で役割をしっかりと果たしスムーズに傷病者の受入を行うことが出来ました。

病院長より「今回は地震を想定とした災害訓練であったが、人吉球磨地域は山に囲まれており土砂災害、水害、また高速道路等での多重追突事故等により多くの傷病者が発生することが考えられる。今回は初めての災害訓練であったが今回の経験を生かし



当院 黄エリアの様子

災害発生時に冷静に行動できるように普段から心がけておいてください」との総評がありました。

今回の訓練が、より実践に即したものになりますよう当院におきましても引き続き訓練を実施していきたいと考えております。

医療法人 蘇春堂 球磨病院
地域連携室 野田 泰功

消防訓練(夜間帯火災想定)

12月8日(日)災害実動訓練終了後に消防訓練が行われ、私は護送の必要な患者役として参加しました。火災発生後イーバックチェアという身体が不自由な方でも迅速に階段を使い避難できる装置へ乗り込み、前両側にスタッフ2名、後ろに1名のスタッフの付添いで階段を使用し避難を行いました。階段を

降りるとき多少の揺れを感じ不安感もありましたが、スタッフの声掛けのおかげで不安感も和らいでいきました。実際、夜間帯火災時が起きてしまった場合には、夜間帯でスタッフの数も少ないため、より迅速かつ安全な避難誘導が必要だと感じました。こういった消防訓練を通して避難経路や避難方法など職員の共通の認識を持つておくことが大切だと思います。

内科クラーク 平古場ひとみ

沖縄県総合防災訓練 緊急消防援助隊 九州ブロック合同訓練

2013年11月27日と28日に行われました沖縄県総合防災訓練 緊急消防援助隊 九州ブロック合同訓練に当院DMAT隊も参加しました。この訓練は、阪神・淡路大震災を教訓に国内で発生した大規模災害に迅速かつ確に対応するため、毎年、九州各県輪番で行われています。九州各県からDMAT53隊、九州各県緊急援助隊87隊、陸上自衛隊が参加し沖縄県内4カ所にて行われました。当院からはDMAT隊5名が参加しました。

与那原町東浜を震源とする最大震度6強の地震が発生し大津波が本島南部沿岸に到達したため、建物や橋、トンネルの崩壊などが発生したという想定で行われました。我々は、橋の崩壊現場やビル内に取り残された人達が救助され運ばれてくる救護所に派遣され、他のDMAT隊や消防と連携を図りながら、被災者のトリアージ（病気やケガの緊急度や重症度を判定し治療や後方搬送の優先順位を決めること）を行いました。実際の災害現場では限られた通信手段で他施設のスタッフとコミュニケーションを取りながら効率よく活動を進める必要があります。各



組織、各隊、各人の役割分担、そして連絡指揮系統を明確にすることで混乱なく活動を行うようにすることが重要だと感じました。

当院でも毎年、地域の皆様にもご協力頂きながら災害訓練を行っています。災害拠点病院として、有事の際に迅速に対応ができるよう、職員一同これからも活動を続けてまいります。

人吉総合病院 DMAT 医師 西村 淳

孤立地域に係る防災実動訓練

○訓練の概要

去る12月4日（水）、人吉市村山公園を主会場に多数のヘリコプターを活用した防災実動訓練を実施しました。人吉市を震源とする直下型地震が発生し、多くの孤立地域が発生したという想定のもと、人吉総合病院をはじめ、防災関係機関15機関・約280名に参加いただき、各機関による懸命な災害応急活動が各訓練会場で展開されました。

○訓練の実施の経緯

平成23年に発生した東日本大震災は、大規模で、かつ、広域的な災害でしたが、そこでは、孤立地域が発生し、救出や救助が遅れる事態が発生しました。また、被災現場では、多数の関係機関の連携強化が課題として浮かび上がりました。

このような震災での課題を踏まえ、災害時に真に必要な対応能力の向上と相互の連携強化を図ることをねらいとして、平成24年1月に初めてこの訓練を行いました。今回の人吉・球磨地域での訓練が、2回目となります。

○訓練の内容

災害発生時には、人命を守ることが最も重要な使命となります。特に、災害発生から72時間（3日間）が経過すると、生存率が急激に低下するとされることから、災害発生の初動期（72時間まで）に、いかに迅速に医療スタッフが被災地に投入し、適切な応急処置を施すかが重要なポイントとなります。



今回の訓練では、人吉総合病院の災害派遣医療チーム（通称：DMAT）1隊・5名に参加いただき、孤立地域として想定した人吉市田野町に自衛隊の中型ヘリコプター（UH-1）で搬送する訓練を行いました。

さらに、本年5月に新設された病院の屋上のヘリポートで、ヘリコプター計2機から救助者を受け入れる訓練を行い、自衛隊・消防・関係自治体などとの連携についても確認しました。このような合同訓練を通じて、お互いに「顔の見える関係」を構築できたことも、今回の訓練の大きな成果だったと考えています。

○今後の期待

人吉総合病院は、「災害拠点病院」として、この地域における災害医療の中核を担っていただくことから、今回の訓練を契機に災害時に備え、スタッフの錬度向上や資機材の整備など、さらなる災害医療体制の向上に向けお取り組みいただくことを期待しております。

熊本県知事公室危機管理防災課 防災対策班 主幹
白鳥 満啓

高沢地区傷病者救出訓練について

12月4日（水）、県内で大規模な孤立地域が発生したことを想定しての訓練が実施され、球磨村高沢ではヘリコプターを使った傷病者の救出（病院搬送）という訓練に行政、自衛隊等関係機関が参加しました。

救助のヘリコプターは、高沢の狭隘な山間の谷沿いに下降し、救助地点である高沢公民館隣の小高い丘の上空約50メートルの位置に静止、機内から救助隊員1名が先に下降し、2名の傷病者を1名ずつ機内へ収容しました。

ヘリコプターが救出作業を行った時間は、概ね十数分だと思えますが、上空でホバリングする時の爆音、回転翼からの風に吹き飛ばされんとする地上の関係者、たった1本のロープで吊り

上げられていく傷病者、まさに災害現場さながらの緊張感ある訓練でありました。

無事に救助が終了し、空高く舞い上がっていくヘリコプターをホッと見送りましたが、現実にはこうした状況が起こらないことを祈ると共に、無駄のない隊員の救助活動、そして傷病者が迅速に医療機関へ運ばれていく様子に大きな信頼感を得る訓練となりました。

球磨村役場 総務企画課 課長補佐
山口 隆雄



第16回 健康保険人吉総合病院研究発表会

12月14日人吉カルチャーパレス小ホールにおいて第16回健康保険人吉総合病院研究発表会が開催されました。今回は、一般演題9題と海外研修報告、特別講演が行われました。

一般演題からは、各職種の視点からそれぞれの抱える問題点や課題に対する取り組み・活動等の発表があり、今後の当院の医療の質の向上に繋がるものと感じられました。

今回の特別講演は、大分岡病院長 森 照明先生をお招きして、「病院改革 発想の転換」と題し、講演をしていただきました。西別府病院や湯布院厚生年金病院、現在の大分岡病院で病院長として赴任され、各病院での経験をもとに患者、病院および職員の為に様々な取り組みを実施された体験談を教えてくださいました。特殊外来や各センターの新設をはじめ、広報活動やボランティアシステムの構築まで幅広く活動をされ、とても興味深い内容でありまし



大分岡病院 森 照明先生

た。「失敗は絶好のチャンス」という言葉が印象的で、失敗を恐れず、チャレンジしていくことの大切さを再認識しました。

来年度より当院も新機構へと移行します。また、この超高齢化社会に対して今後更なる変化を求められると思われませんが、今後、患者や病院の為に積極的に取り組んでいきたいと思えます。

医療福祉連携室 田頭 隼人

元巨人軍選手 表敬訪問

12月7日 人吉総合病院で、元巨人軍の山本選手、二宮選手、定岡選手、篠塚選手による表敬訪問がありました。前日に知り、その時からずっとわくわく



していました。今回訪問された中の一人、篠塚選手は私の青春時代からあこがれの存在であり、実際に会

うことが出来て、夢のような時間でした。これまで病気と闘い続けてきて人生をあきらめていた部分もあったのですが、これまで頑張ってきた生きてよかったと思いました。今回の訪問で青春時代がよみがえったようでした。選手の方々から元気とパワーをもらい、人生何事もあきらめてはいけなと感じました。

今後も病気と前向きに向き合っていきたいと思えます。また、今回頂くことが出来たサインや、一緒に撮って頂いた写真は家宝にして大切にしたいと思います。

森田 明美

人吉歳末たすけあい演芸会

去る12月1日(日)、人吉カルチャーパレスで開催された、人吉歳末たすけあい演芸会に当院のコーラス部も出演しました。今回、私たちは「母賛歌」という歌を歌いました。

ヒューマンノートの方のアレンジ&ご指導のもと、平日の業務終了後や休日集まり練習を重ね、本番に臨みました。

当日は、たくさんの観客を前に緊張感でいっぱいでしたが、精一杯思いを込めて歌いました。練習の成果を十

分に発揮できたステージだったと思います。客席の中には、涙を流している方もおられ、大変良かったというご感想を頂きました。また機会があれば、参加させていただきたいと思えます。

応援、ご協力をして下さった皆様ありがとうございました。

人吉総合病院 コーラス部 濱田 由香梨



人吉総合病院図書室 新刊紹介



『決められない患者たち』

原 著：Jerome Groopman / Pamela Hartzband

訳：堀内 志奈

出版社：医学書院

医療上の決断を迫られたとき、患者の心はどう動く？ 悩む患者。主義を貫く患者。いつまでも決められない患者。医療上の決断に際して、患者は何を考えているのか？ 心理学、統計学などの研究を紹介しながら、患者の内面を分析していく。ハーバード大学医学部教授による、患者と医師に密着したルポルタージュ & 行動分析研究の紹介。(出版社による内容紹介・帯より)

※ 貸出登録処理後、職員用図書室に配架致します。是非一度、図書室へお問い合わせください。

出張講演

薬物乱用防止教育講演会「世間に氾濫している危険」

平成 25 年 12 月 2 日(月)、人吉第一中学校主催で平成 25 年度薬物乱用防止教育講演会が行われました。講演では、当院副院長 下川恭弘先生より「世間に氾濫している危険」と題して、薬物乱用・飲酒・喫煙・生活習慣病等、世の中にあふれている、将来遭遇するかもしれない危険についての話がありました。



頂いた感想文綴り

(1年生)

- ・飲酒や薬物は体に悪いと分かっているけど理性、自分の意志でやめられないということが怖いと思った。
- ・印象的だったのは「たばこの害」。ファミレスなどで喫煙は別にしているが、禁煙席に座っていてもたばこの臭いがするのでお店などは全部禁煙になって欲しい。

(2年生)

- ・お酒は20歳からと決まっているので誘いに乗らず、断れる勇気を持ちたい。また、女性は赤ちゃんが出来た場合はその赤ちゃんにまで影響があるということを学んだので大人になって吸わないようにしたい。
- ・たばこは“ニコチン”などの物質によって脳に影響が出て変な気持ち良さになっているが、その後癌などの病気が出たり、大変。お父さんに今日の話を話して

やめてもらえるように説得します！

- ・薬物には絶対に手を出してはいけないし、友達がしようとしていたら注意できる人間になりたい。

(3年生)

- ・お酒も害があるが、大人になったら飲む機会も出てくると思う。だからその時は飲みすぎに注意して自分の体を守っていききたい。
- ・普段身近にいる大人が吸っているたばこやお酒は私たちの体をむしばむ色々な病気の原因となるということを知り、強い衝撃を受けた。たばこもお酒も薬物も決して良いものではなく、依存性のある危険なもので、これから健康的に生きていくうえでこれらの危険性や知識をしっかりと理解して自分の体を大切にしていきたい。

クローバーネット開催

人吉球磨地域では、平成 20 年より「患者・家族の情報と患者目標の共有化を図るため、病院や在宅とのネットワークづくり」を目的とした会(クローバーネット)を定期的に開催しております。

去る 11 月 26 日(火)、今年度 2 回目となるクローバーネットの研修会が開催されました。

今回は、人吉市保健所の東様より「人吉球磨圏域の現状と課題、在宅医療・介護推進についての取り組み」の紹介、訪問看護ステーション楽日和の訪問看護師 堀之内明子様から「訪問看護を受けながらご自宅で看取りをされた症例」の発表がありました。

地域包括ケアシステムの構築については、高齢化社会を迎える日本の重要課題となっており、当地域でも地域の医療・保健・福祉機関の方々と当院が連携して取り組む課題でもあります。

在宅を支える事業所の方から今回の研修会感想を頂きましたので、掲載致します。

重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、安心を提供するためにも地域包括ケアシステムの構築は必要不可欠だと思います。今回、クローバーネットの研修に参加して、地域包括ケアの拠点としての役割を担う、人吉総合病院がどのように連携を持たれているのかを実際の事例を通して知ること、私どもの訪問看護ステーションとしての役割や、他の医療・介護・福祉との連携について学ぶことができました。また、今後も、地域住民のニーズに応じた一体的なサービスを行う仕組みづくりを人吉総合病院が中心となり推進して頂ければと思います。

訪問看護ステーション 3rdHand
幸喜 妙弥

この研修会を通して思ったことは、病院から在宅までの連携の仕方や訪問看護の現状と実際の事例を聞かせていただき、これからの在宅医療にかかわる中で医療機関だけでなく、訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所および社会福祉施設などが、お互いの立場や職種の垣根を越え、役割分担しながら他職種間の関わるチーム医療・介護の連携により地域住民へ「病気になっても安心して過ごせる」そして「終末期にあっても最後まで有意義に過ごせる」ような環境を提供していく必要がある。病院から在宅へのスムーズに移行できる体制や準備がよりいっそう充実していけるように訪問看護ステーションや病院とより綿密な連携ができるように努力したいと思いました。

すずらん総合在宅支援センター社会
福祉士 福山 幸義



笑って健康促進！ 第95回 翔幻会開催！

平成二十五年十二月分開催分の句をご紹介します。
どうぞ、ご鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十五年十二月分

- 体脂肪出せたらいいなゴミの日に 圭子
- お茶の間で紅葉を回るテレビ旅 圭子
- お買物スツピンかくれるマスクして 圭子
- 病み上がり増えた体重うれしいね 智子
- やせたねと言われるたびにののきます 智子
- 体重計人が居ぬ間にそっとのる 緋紗
- 借りたいな関取はかる体重計 緋紗
- 体重が減った分だけ皺ふえた 佐津子
- 体重が減って合格問診票 佐津子
- 減量を決意しました試着室 西村比呂志
- 回復期体重量るのも楽し 西村比呂志
- 増えるのはおなかの肉と口ばかり カツ子
- 年寄で店が賑わう年金日 カツ子
- 十二月面白いほど出るお金 レイ
- 冬がきたこたつでみかんあったまる かなこ
- 冬がきた私のはだはカサカサだ さち
- 給食を食べさせる自分も口をあけ マチ子
- ひげそば夫の顔ばならぬ マチ子

次回も第四木曜日に開催となります。平成二十六年一月三十日(木) 十四時から本館二階図書室で開催致します。
ご自由にご参加下さい。投稿のみの参加もできます。院内設置の投稿箱にご投稿下さい。

総親会忘年会

12月14日(土) 18時より平成25年人吉総合病院総親会忘年会が院内研究発表会後、あゆの里で開催されました。院長挨拶、来賓紹介が行われ、上村邦紀名誉院長の乾杯の音頭で忘年会が始まりました。

当院では、新人が出し物をするのが恒例となっており、今回は12チームの参加がありました。どのチームも踊りや劇など、さまざまな工夫を凝らした出し物で会場を沸かせていました。

地域連携室 豊永 香織



新任紹介



木下 恵美 (医療クラーク)

最終卒業校：大原簿記専門学校 大宮校

趣味：お菓子作り、バドミントン

モットー：一汁三菜を心がけてます

自分の性格：人と話すことが大好きですが、最初は人見知りです…

自分のコマーシャル：ブランク6年ですが、皆様の迷惑にならないよう頑張りますので、どうぞよろしくをお願いします。

12月の勉強会報告

12月3日(火)心血管疾患医療連携カンファレンス

- 「心疾患地域連携クリティカルパス運用状況」
健康保険人吉総合病院 医療福祉連携室 金栗 由佳
- 「心疾患の栄養指導～続けるための食事の工夫～」
医療法人恵愛会 中村病院 管理栄養士 工藤香織様
- 症例検討「段階的に血行再建治療を行った冠動脈疾患の一例」
いしざわ循環器内科 院長 石沢 宗純 先生
健康保険人吉総合病院 循環器内科部長 岡 秀樹 先生

12月6日(金)学術講演会

「糖尿病と合併症の予防と治療-熊本宣言2013の活用-」
熊本大学大学院 生命科学研究部 代謝内科学 教授 荒木 栄一先生

12月9日(月)人吉核医学講演会

特別講演「SPECT-CT融合画像の臨床応用」
熊本大学大学院生命科学研究部 放射線診断学分野 白石 慎哉 先生

レストラン・カフェオープンしました！

安心・安全でおいしい食事の提供、院内の安らぎ場

- 店内厨房で調理した手作りのメニューを基本として提供します。
- 「ホスピタリティ」の精神で、丁寧なおもてなしをします。
- 居心地の良い安らぎの場としての環境を整えます。

●メニュー

日替わりランチ	[日替わりランチ]
カレー・ピラフ	[ビーフカレー、カツカレー、ピラフ]
パスタ	[ミートソース、明太子、ナポリタン]
和麺(うどん・そば)	[わかめ、山菜、きつね、丸天、海老天]
ドリンク	[コーヒー、紅茶、ミルク、カフェオレ、オレンジ、アップル]
デザート	[アイスクリーム、コーヒーゼリー、あんみつ、ぜんざい、ホットケーキ、ケーキ]

機光洋



レストラン兼カフェ bien mall

営業時間：11:00～15:00
(土・日・祝日：休業)
※年末年始 12/30 OPEN

12月のフレッシュマンセミナー報告

- 12月5日 河野真由「一度は行ってみたい世界の絶景・秘境」
- 12月19日 黒木智佳「ハワイについて」
- 12月26日 中西 節「人吉市の魅力について人吉市と夏目友人帳」

